



生徒寄稿

『変わる環境』

二月に入り、クラスの雰囲気がとても良くなりました。何を理由に良い方向へ進んだのかはわかりませんが、今では一人一人が自分の意見を主張できる環境です。残りの登校日も少なく行事もほとんどありませんが、これから先卒業しても思い出話ができるような大切な仲間を作り続けていきたいです。

A組 坂下一颯

『マネージャーから見た選手権の景色』

僕は今、サッカー部のマネージャーとして日々の部活動を行っています。僕は、九月から行われていた全国高校サッカー選手権大会に帯同していました。千葉県代表が決まった流経大柏との決勝戦もベンチ裏で見ました。決勝での岩田先輩のゴールは今も忘れられません。チームのみんなは目標を持って厳しい練習をこなしています。僕も知識を深め日々努力し、チームに貢献したいです。そしてあの場所で皆と喜びを分かち合いたいです。

B組 中山尚晟

『C組の一年間』

C組はおとなしい人が多いため最初は静かでした。しかし、時間が経つにつれ、クラスが一つになっていきました。授業の面では、状況をわきまえ、集中して取り組み、学年上位をC組が占めることができました。文化祭、体育祭がない中、日常生活で仲を深めることができ、有意義な一年になりました。

C組 吉村綺笑

『協力しあう検定週間』

僕たち一学年の商業科は一月の中旬頃から検定週間がありました。この検定週間というのは、一学年商業科の集大成といえる大切な週間でした。クラスでは、全員が検定*合格を目指して集中して検定勉強にのぞむことができました。時には、分からず頭を抱えるクラスメイトもいましたが、分かる人が教えてあげてクラス全体で協力し合うことができました。今年行事が少なかったですが、クラスで協力し合うことで仲を深められた検定週間で嬉しく思います。

*簿記検定など

G組 野中勇吾

『もう少し』

この一年間を振り返ると制限の多い年だったと思います。度重なる、部活動の試合や学校行事の中止などで思い描いていたような学校生活が送れた人は誰もいないと思います。しかし我慢が続いたからこそ、これから何倍も楽しいことが待っているはず。この経験を無駄にせず、早く日常が戻るようにこれからも頑張りましょう。

I組 須永光輝



1月19日 スキー実習(代替実習)

心に出合った一年間

この一年間君達の心をたくさん見ることができました。

心は見えないのでそれに気づくには、君達の行動や言動から感じるしかありません。

ゴミを集積場まで持っていこうと廊下を歩いていると、持って行きましょうかと声をかけてくれた生徒がいました。

昇降口に捨ててあったゴミを何も言わずに拾い、自分のポケットに入れている生徒がいました。

お願いをしていないのに、黒板をきれいにしてくれている生徒がいました。

他のクラスへの配布プリントを、責任を持って配布してきますと言ってくれた生徒がいました。

下校中、地域の人が捨てようとしていたゴミ袋を自分が持っていきますといい集積所まで運んでいる生徒がいました。

廊下が汚れていることに気づき、すぐに掃除をしてくれた人がいました。

人は心に優しさや、人のために何かしたいと思う気持ちがあると思います。

この学年にいる生徒一人一人がその気持ちを表現し、言葉や行動にすることができたら、学校はたくさんのありがとうに満ち溢れることになると思います。

たくさんの優しさが溢れる学校にしていきたいです。

進級おめでとうございます。君達の成長をますます期待しています。

理科 伊東 浩二

「高校生活の本番」2年生に向けて

この1年間、コロナウィルスの影響で、世界は大きく変化しました。そして、学校もまた、大きな変化を余儀なくされました。休校期間中に入学式を迎え、分散登校、学校行事の中止や縮小、部活動の制限、チームスの活用。あたり前にあった今までの学校生活を同じように送ることは出来ず、残念に思う一方、このような状況で出来る事を考え新しい形を模索していた1年でもありました。来年度はより新しい形の学校へ変化をしておこなっていかなくてはならないと感じています。

さて、みなさんはまもなく1年生を終え、2年生になります。1年生は何もかも初めてで、中学校との違いに戸惑いながら授業やテストを受け、部活動では先輩に必死でついていく1年間だったのではないのでしょうか。

高校2年生はどのような時期なのでしょう。2年生は「高校生活の本番」です。部活動では中心的役割を担います。勉強でも、進路実現に向けてそれぞれのスタートを切ります。2年生の総合の時間には、進路別(理系勉強、文系勉強、小論文面接、就職公務員の4つのコース)に分かれ、活動していく時間も、先月希望調査を取りました。6月には3年生のコース、選択科目の希望調査の提出も控えています。科目を選択するということは、受験科目に直結することです。早いと感じる人も多いとは思いますが、その選択の時期が迫ってきています。

そして、2年生は「差がつく学年」とも言われています。1年生で要領がつかめた今、手を抜こうと思えばいくらでも抜くことができます。次年度のことを考え、熱心に取り組む生徒との差が大きく開きます。進路についても、受験学年まで「まだ1年ある」と考えるか、「もう1年しかない」と考えるかで、大きく変わります。高校生活が充実する人、なんとなく終わってしまう人、差がつくのもまた2年生なのです。

高校から先の進路は選択肢が多い分、情報を集める、比較検討する、といった準備も時間がかかります。準備期間がしっかりある人ほどより良い選択ができます。3年生になってから…、部活を引退してから…、ではなく、進級するこの機会に自分自身の進路や、2年生の過ごし方について考えを深め、家の人と話し合う場を設けてほしいと思います。

家庭科 渡邊 絵里

「カリブの深海にならないか？」

1 学年室前に立ち寄ると、そこには心の癒される空間が広がっています。東京ディズニーシーを彷彿させる海底火山に、かつてジャックスパロウが乗っていたであろう沈没船。それらに彩りを与えるように泳ぎまわる「ネオンテトラ」や「めだか」の群れ。

かつては「泥沼」と呼ばれ、ただ置いてあっただけの水槽も、今ではみんなが認める「カリブの深海」となりました。

出だしが最悪だった水槽も努力を積み重ね、みんなを魅了するまでになったのです。

もうすぐ1年が終わります。もしこの1年が期待していたものと違って、大丈夫。

どれほど最悪な出だしでも、皆さんの頑張り次第で「カリブの深海」になれます。

英語科 門田 英駿

